

経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県 金山町

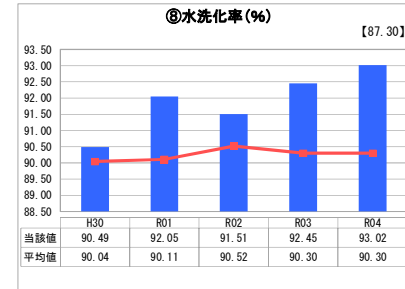
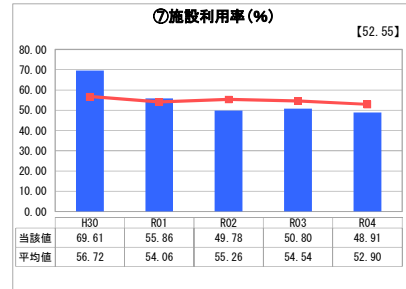
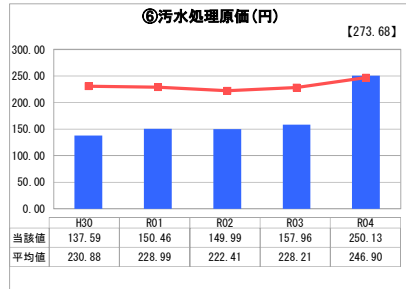
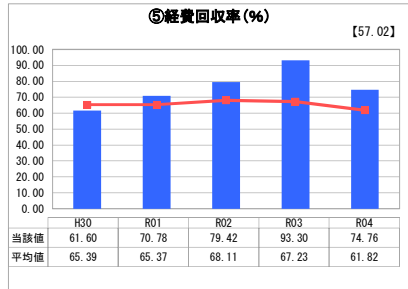
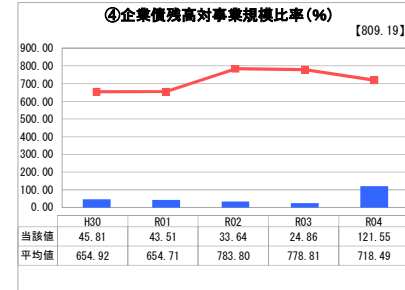
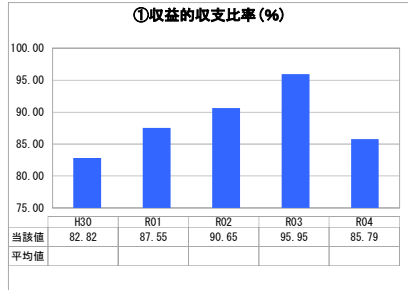
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	20.80	68.60	3,740

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,981	161.67	30.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,031	1.21	852.07

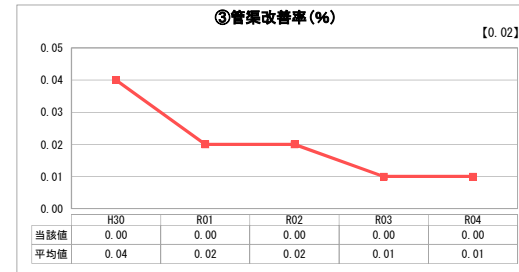
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

農業集落排水会計は、現行料金では財源不足であり一般会計からの繰入金を経費に充てている状態である。

令和元年10月に使用料の見直しを行ったことにより、収益的収支比率及び経費回収率共に一時的に改善が見られたが、維持管理経費の増加に伴い指標が悪化している状況にある。今後も収益増加のため、農業集落排水への加入促進とともに、使用料を段階的に適正水準となるよう改定を実施し、併せて収納対策を講じていく必要がある。

農業集落排水処理施設（明安地区、有屋地区）及び管渠は、老朽化が進み維持経費が今後増加することが見込まれることから、明安地区については平成28年度に実施した機能診断調査を基に、令和4年度までに機能強化事業による更新工事を実施した。

また、有屋地区について令和2年度までに機能診断調査を実施し、町全体の農業集落排水事業の最適整備構想を策定済みであるので、今後は、維持管理適正化計画を令和5年度に策定した上で、農村整備事業補助金などを活用し施設の補修や更新を実施していく。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設は、明安地区が昭和63年度、有屋地区が平成6年度に供用開始しており、老朽化が進んでいるため、機能診断調査を行い更新計画を策定する必要がある。

明安地区は、平成30年度に更新実施計画を作成し、令和元年度から着工、令和4年度まで計画的に機能強化事業で管渠補修、汚水樹更新、処理施設更新などを実施した。（総事業費約2億円）

また、有屋地区について令和2年度までに機能診断調査を実施し、町全体の農業集落排水事業の最適整備構想を策定済みであるので、今後は、維持管理適正化計画を令和5年度に策定した上で、農村整備事業補助金などを活用し施設の補修や更新を実施していく。

全体総括

農業集落排水事業は、明安地区が昭和63年度の供用開始から令和4年度で34年が経過し、施設設備の老朽化が進み、維持経費が増加する傾向にある。

平成28年度に実施した明安地区の機能診断調査を基に平成30年度に施設更新の実施計画を策定、令和元年度から令和4年度に機能強化事業を行うことで計画的な施設管理、維持経費抑制を図っていく。

また、有屋地区についても明安地区と同様に機能強化事業を行っていく予定である。

さらに令和6年度に公営企業会計に移行することから、中長期的な経営分析を行い、適正な料金水準の検討を実施し、併せて加入促進を行うことで収益増加を図っていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。